

富山高校物語Ⅳ 北陸随一の赤松の庭園を保ち、奇跡の赤松を再生

校舎前庭の赤松の庭園は、大正12年に、旧校舎とともに整備されたものです。富山県でも初期の造園と言われます。昭和46年の大火で、この「赤松の庭」は、周囲の「太郎丸の杜」とともに黒焦げとなり、再生が危ぶまれました。

焼損した2本の赤松の幹を、本校は大切に保存し、九十周年・百周年記念のモニュメント、オブジェとして正面玄関を飾っています。

火の中から蘇る不死鳥のような復活の証と言えるでしょう。

新校舎建設とともに、赤松の庭園の再生が図られ、グラウンドから数本の赤松が移植されました。四十年後の今、北陸随一の赤松の庭と言われています。

中でも、「奇跡の赤松」と呼ばれる木は、降り注ぐ火の粉を受けて幹の中心を焼かれ、樹皮のみとなりましたが、副え木や防腐処理を施し、根を活性化するなど丁寧な手当てで40年以上も青々と葉を繁らせています。

災害を乗り越えて、自ら伸びようとする生命を本校の人々が支えてきたことは、教育の庭に集う人々にとって、勇気の源泉といえます。



赤松の庭園 全景



大正12年 旧木造校舎と赤松



奇跡の赤松

“Miraculous red pine” which suffered from the fire

This Japanese red pine trunk was planted in the front garden of Toyama High School in 1923 and burned by the school building fire in 1971. Our school stored two tree trunks which died by the fire and succeeded in preserving them for the next century. The art object called "the Annual Ring" in the back wall of the entrance is made with another tree trunk, and shows that our school has traditions lasting more than 100 years.

Many trees suffered big damage from the fire. Thanks to the cooperation of many people several decades, this garden express the typical Japanese beauty. There is "Miraculous red pine". The core of the tree trunk burned down, and became only the skin. I am impressed by the people of our school having supported the will of this tree which is going to live. I think this fact to be the good example indicating the way of our education.

火災に遭った「奇跡の赤松」

この赤松の木の幹は、1923年（大正12年）に、富山高校の正面の庭に植えられ、1971年（昭和46年）に起きた校舎火災によって燃え落ちました。本校は、火災によって枯れた2本の木の幹を保存し、次の世紀に引き継ぎました。玄関の奥の壁にある「年輪」というオブジェは、もう一本の木の幹で作られ、本校が100年以上の伝統があることを示しています。

この火災で、沢山の木々が大きな被害を受けましたが、多くの人々の協力によって、数十年後の現在、典型的な日本の美を表す庭園となっています。木々の中には「奇跡の赤松」があります。幹の中心部が焼け落ち、皮だけとなっています。生きようとする意志を、本校の人々が支えてきたことに心打たれます。このことは、教育のあり方を示す好例であると思います。



赤松のモニュメント群

